



恒例の仮装行列も大盛況

10/7 若いもんには負けとれん

坂戸の市総合運動場で「第33回 可児市健友連合会 体育大会」が開催され、約510人の会員が地区ごとに分かれて競い合いました。

大会では、玉入れやラグビーボール蹴り競争、ボール運び競争などが行われました。また、来賓や役員、有志が参加して行うリング回しや、8団体が思い思いの衣装を身にまとった仮装行列も行われました。



秋らしい寄せ植えをする参加者

9/21 ママたちも気分転換

広見児童センターで「リフレッシュママ秋の寄せ植え教室」が開催され、市内在住の未就園児の母親 18人が参加しました。

この教室は子育て中の親がリフレッシュできる場と親同士の交流の場作りを目的として、月1回開催しています。

参加者は、「子育てをしているとなかなかイベントなどに参加するきっかけがない。少しの時間、託児を利用でき、心身とも“リフレッシュ”することができました」と感想を話していました。

10/8 公民館を拠点にした活動を

文化創造センター・アールで「第2回 岐阜県社会教育推進大会」が開催され、公民館関係者、社会教育委員など約540人が参加しました。

大会では、各分科会に分かれて活動のあり方について議論した後報告が行われ、全体指導として昇 秀樹さん（名城大学都市情報学部教授）による講評が行われました。

また、(株)吉番屋創業者・特別顧問の宗次徳二さんを迎え、「私の人生」と題した講演会も行われました。



開会のあいさつをする内堀 實 大会長

9/25・26 迫力ある試合を展開

第16回可児市長杯車椅子ツインバスケットボール大会が帷子公民館で開催され、白熱したゲームが繰り広げられました。

25日は、地元中学校のバスケットボール部員によるエキシビジョン。26日には、東海・北陸の4チームによるトーナメントが行われました。試合では、車椅子同士の激しいぶつかり合いや鮮やかなシュートが見られました。熱戦の結果、地元の岐阜エクスプレスが優勝を飾りました。



相手のシュートをブロックする選手



血圧測定を受ける来場者

10/16・17 めざそういきいきライフ

文化創造センター・アールで「第20回記念 健康フェア可児」が開かれ、2日間で約12,500人の来場者がありました。この催しでは、可児医師会や可児歯科医師会をはじめ43の団体が、各ブースに分かれ展示や体験コーナーを設けました。

16日には、県民健康セミナーとして作家の落合恵子さんによる講演会、17日には日本骨粗鬆症学会員の大林浩幸さんによる健康講話が行われました。



決意を述べる澤田さん（左）と千賀さん

9/30 宝寿の決意を披露

今年度、市内で75歳を迎える皆さんをお祝いする「いきいき長寿のつどい～宝寿の賀～」が文化創造センターで行われ、443人が参加し、旧交を温めました。

祝賀式典の中で、参加者を代表し澤田公宏さん（皐ヶ丘）と千賀澄子さん（中恵土）の2人が「心身ともに健康で長生きをし、明るく思いやりのあるまちづくりに参加したい」と宝寿の決意を述べました。

式典後は、歌謡漫談や歌手の大川栄策さんによる歌謡ショーのステージを楽しみました。

10/17 勇壮な武者行列が出陣

森蘭丸の生誕地である兼山で、戦国武者行列「若獅子蘭丸2010」が行われ、華麗な戦国絵巻が繰り広げられました。

武者行列には、地元をはじめ、東京や兵庫などからも公募で集まった69人が参加。森家の武将や姫、鎧隊、鉄砲隊などに扮しました。

また、地元の子ども神輿などにもぎやかに行列に加わり、本通りを2キロほど練り歩きました。



蘭丸役を務めた浅井美友さん（岐阜市・15歳）

10/5 車いすの病院が市内にオープン

壊れたり不具合なままの手動式車いすの修理や、不要となった車いすの回収などを行う「車いす病院可児」が、下恵土の(株)大桜産業内にオープンしました。

この施設は、NPO法人アジア車いす交流センター(WAFCA)が運営するもので、県内では初となります。

受付時間 火曜日から土曜日の午前9時～正午
問合せ先 (株)大桜産業 ☎66 7001



ボランティアで作業を行う整備士ら